

「新たな森林管理システム」等の効果的な運用に向けた検討ワーキンググループについて

1 目的

「新たな森林管理システム」及び森林環境譲与税（仮称）の円滑な導入と効果的な運用を図るため、市町村の運営体制の構築や広域自治体である県が取り組むべき施策等についてワーキンググループを立ち上げて検討を進めるとともに、市町村と県との連携体制を構築する。

2 ワーキンググループの構成

(1) 構成員

区分	職名	人数	備考
市町村	須坂市農林課担当課長 茅野市農林課長 塩尻市森林課長 千曲市農林課長 東御市農林課長 南牧村産業建設課長 根羽村振興課長 朝日村産業振興課長 小川村建設経済課長	9名	市長会推薦（5名） 町村会推薦（4名）
長野県林務部	林務部長（座長） 森林政策課長 信州の木活用課長 森林づくり推進課長 県産材利用推進室長	5名	財政課 総合政策課

※検討テーマに応じ、必要な者を適宜構成員として追加参集するものとする

(2) オブザーバー

長野県市長会事務局次長、長野県町村会事務局次長、地域振興局、長野県林業公社、長野県林業コンサルタント協会、伊那市等適宜検討テーマに応じて出席依頼

(3) 座長

長野県林務部長

(4) 事務局

長野県（林務部森林政策課）

3 これまでの取組

- ・ワーキング会議の開催 3回
- ・市町村長訪問、個別打ち合わせ 10月～11月
- ・県と市町村との協議の場での説明 11月

4 主な論点と検討の方向性

(1) 新たな森林管理システムの導入に向けて

- ・ 県内の市町村の約7割が他の業務との兼務で林務業務を担当しており、人員・専門人材ともに不足している状況。

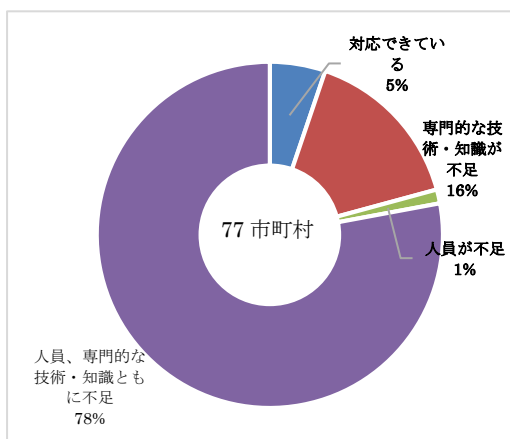
【市町村の林務担当組織 (H30. 4. 1 時点)】

区 分	市町村数	割合
林務単独の課がある	3	3.9%
林務単独の係がある	21	27.3%
兼務で対応している	53	68.8%
計	77	

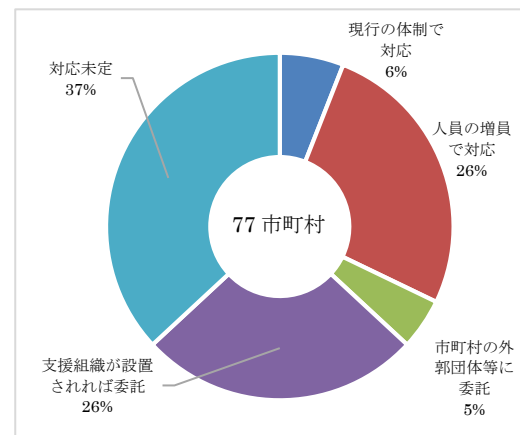
(上田市、飯田市、塩尻市)

【市町村への聞き取り調査結果 (H30. 5 月)】

現行の業務内容・業務量に対する体制



新たな森林管理システムの導入に対する対応



- ・ こうした状況を踏まえ、新たな森林管理システムの導入にあたっては、市町村を支援するため体制を構築することが必要であり、かつ、広域的に対応を図ることが効果的。
- ・ 新たな森林管理システムは、市町村として、林業の適地をゾーニングするなどして、どこを優先するのか明らかにして取り組んでいくことが必要。
- ・ 具体的な実務については、分からない部分も多く、市町村の負担も大きいことから、県のリーダーシップに期待。

(2) 森林環境税への対応について

- ・ 森林環境譲与税については、新たな森林管理システムに活用することを中心としつつ、まずは所有者の特定や境界の明確化、意向調査などの条件整備に活用することが重要。
- ・ 地域の課題に対応できる財源ではあるが、市町村では説明責任を果たしていくことが必要であり、そのための基本的な考え方などを整理。